

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価についての報告

分野	重点目標	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策等
1 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> やさしさいっぱい わかったいっぱい あせいっぱい 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標や重点目標が、児童・家庭・地域にさらに周知され、具現化されるように全教職員で来年度も取り組んでいく。 挨拶は人との関わりの中でとても大切なものである。児童が自ら気持ち良く挨拶できるようにってはきているが、児童会の活動も交えながら声かけを行っていく。 一人一人の個性や発達段階を理解して寄り添いながら、児童の努力する姿や協力し合う姿を認め、学習や生活に対する指導・支援を継続していく。
2 教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を育成するため学習指導要領をふまえた教育課程を編成する。 基礎基本の定着とともに、思考力や学習意欲を育てるための授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台の学習用端末等の ICT 環境が整備された。これまでの教育実践にさらに ICT を利活用し、児童の力を最大限に引き出す主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを目指す。 折に触れ「咲が丘小学校 授業の約束」を確認し、児童が学習に集中できるようにする。また、家庭にも周知し、授業に必要な持ち物の協力を得る。 児童一人一人が自分の考えを持ち、学習中に議論できる環境を整えながら授業改善を行っていく。 教育課程の中で、行事や体験活動を大切に、児童が達成感を得られるような工夫をしていく。
3 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が経営参画の意識を持ち、運営にあたっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の活性化を図るため、学校評価や行事の反省を踏まえ、教職員の役割や分掌の見直しを行う。同時に、教職員の特技や専門性を生かせるよう配慮する。 引き続き、不祥事根絶に向けたモラールアップ委員会を中心とした掲示物の作成や研修、セルフチェック、声の掛け合い等を重視していく。 小規模校の良さを生かし、教職員同士が互いに理解し合い協力していけるよう、挨拶や声掛け、コミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境づくりに努める。 様々な課題に対し、組織で早期解決を図れるようにする。また、必要に応じて関係機関との連携を図っていく。

分野	重点目標	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策等
4 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で子どもを見つめ支援し、共通理解と共通行動を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援部会を中心に組織として生徒指導にあたる。児童の様子やアンケート、教育相談等から、児童の抱える課題を早期に発見し、教職員が共通理解して、早期解決を図れるようにする。また、必要に応じて関係機関と連携し、対応していく。 「咲小 5つのやくそく」の取り組み方について、学級で話し合ったり、評価したりしながら、児童会の活動等を通して、児童が主体的に取り組めるようにする。 引き続き SC を保護者、教職員が活用しやすいよう配慮する。また、SC を生徒支援部会に招聘し、思いやりの心を育むために校内研究等で連携していく。
5 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 常に危機管理体制を見直し、徹底する。 児童の危険予知、危険回避能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に自助の力をつけさせるために、学校での安全教育を教育活動全体で行っていく。 避難訓練に、消防や警察の方を講師として招き、児童への指導をお願いする。 家庭の協力を仰ぎ、防犯ブザーのチェック、ルール作り、声掛けをお願いする。
6 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康安全指導を徹底する。 心の健康管理の体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームやスマホ依存で昼夜逆転していたり、イライラしていたりと学校生活に支障をきたしている児童が見受けられる。今後もくり返し根気強く便りや面談、懇談会等で家庭に協力を促していく。 児童や保護者の心身の健康を守るため、管理職、担任、養護教諭で情報を共有し連携をしていく。 感染症対策を学校全体で統一し、国や県、市の動向を随時確認しながら徹底していく。 保護者や児童に全員面談等を通して、SC の教育相談の活用をさらに促していく。
7 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識の上立った校内研修を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の校内研究で得た成果と課題を明確にし、次年度の研究につなげていく。 児童を指導、支援する上で教職員が必要とする研修を計画的に実施していく。

分野	重点目標	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策等
8 保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域から学校へ、学校から家庭・地域へと開かれた学校を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の実情に合わせて、お便りや学校メール等で情報発信をしていく。 ボランティアの活用を積極的に図っていききたい。 学校、家庭、地域が交流しつつ、手を携えて児童の健全育成を図っていけるよう「開かれた学校」づくりを推進していく。
9 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による特別な教育支援を必要とする子どもへの理解と指導を図る。 支援の協力体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する児童の困り感を本人や保護者と確認し、必要に応じ専門機関や関係機関と連携し対応する。 教育支援計画や指導計画を作成し、職員会議等で共通理解を図り、合理的配慮がなされるようにする。 管理職や特別支援教育コーディネーターが配慮を要する児童の課題に対応できるよう教室巡視を行い、手立てを工夫していく。
10 施設設備・環境	<ul style="list-style-type: none"> 教育設備を整備し、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 備品や教具の整備・購入を計画的に行っていく。 授業に ICT を効果的に取り入れたり、事務作業簡素化のために ICT 支援員を積極的に活用したりして、授業及び業務改善を図っていききたい。 清掃活動を週 2 回としているが、児童が自主的に清掃活動に取り組めるようにしていきたい。 教職員が短時間で効率の良い業務ができるように、行事を見直し精選していく。
11 情報	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への積極的な情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 学校メールやホームページ等を積極的に活用し、情報発信していく。 個人情報の管理について定期的に教職員に注意喚起し、個人情報持ち出し簿の管理・チェックを確実にしていく。